

国際交流センターだより vol.18

チェンマイ大学創立65周年記念式典に参加しました（10月24日・10月25日）

本学の協定校であるタイのチェンマイ大学からの招待を受け、2024年10月24日から25日にかけて、嶋医学部長、伊藤医学科長、川上看護学科長の3名が記念式典に参加しました。式典の一環として開催された「International Forum」では、嶋医学部長が本学の海外リサーチ・クラークシップについて講演を行いました。



チェンマイ大学医学部長と記念品交換



嶋医学部長の講演



記念セレモニー（チェンマイ・マリオットホテルにて）

医学部長 嶋 緑倫

チェンマイ大学とはこれまで医学学生や看護師の交換留学を通じて連携を深めてきました。このたびの65周年記念国際フォーラムには、同大学と連携関係にある多くの国が参加しており、チェンマイ大学が国際交流に注ぐ熱意やその取り組みの力強さを実感いたしました。また、医学部長のリーダーシップのもと、各スタッフが新たなプロジェクトに向けて一丸となって取り組んでいる姿勢に深く感銘をうけました。フォーラムでは、本学が推進する海外リサーチ・クラークシップについて講演する機会をいただき、多くの参加者に関心を寄せていただけました。さらに、両大学間の交流をさらに進める方向性で合意に至り、大きな成果を得ることができました。このように大変有意義な滞りとなり、今後もチェンマイ大学をはじめ、海外の教育機関との連携を一層深め、さらなる発展を目指したいと考えています。

免疫学 教授 伊藤 利洋

学術交流協定校であるチェンマイ大学を初めて訪問させていただきました。大学・附属病院の規模の大きさのみならず、DX（デジタルトランスフォーメーション）化の進歩・発展に大きな衝撃を受け、本学も学ぶべき点が多岐にわたることを認識できました。IT技術が急速に発展する中でも、職員・学生が一丸となって我々を温かく迎えてくださるチェンマイ大学のホスピタリティにも大変感銘を受けました。また医学部長や看護部長とも面談させていただき、両大学間交流のさらなる活性化を推進することで合意できました。最後にこのような貴重な機会を与えていただきました細井学長、嶋医学部長、国際交流センターの皆様方に厚く御礼申し上げます。



医学部との面談

小児看護学 教授 川上 あずさ

記念式典後看護学部を訪問し、Suparat Wangsrikhun 看護学部長と大学間の協定書を確認しました。和やかな雰囲気の中で、それぞれの看護学教育の現状について情報交換し、看護学科の国際看護論Ⅱにおけるチェンマイ大学での研修の再開やチェンマイ大学看護学生の本学での研修について意見交換を行いました。

その後、看護学科棟の演習室やミュージアムを案内いただき看護学部発展の経緯を理解しました。今後も交流を深め相互の発展につなげていきたいと考えています。



看護学部との面談

「第12回英語で学ぶ医学・看護学セミナー（医学科2年生対象）を開催しました（11月5日）」

免疫学 教授 伊藤 利洋

本学と連携協定を締結している米国ミシガン大学から Kao 教授（消化器内科）をお招きし、医学生・医師が医学研究に取り組む重要性やその価値をご自身の経験を交えながらご講演いただきました。研究室配属（リサーチ・クラークシップ）を目前にした医学科2年生が主な聴講者でしたので、医学生としてこれから取り組む医学研究の意義や重要性を認識し、リサーチ・クラークシップに取り組んでくれることを期待しております。



ミシガン大学医学部 消化器内科 教授 John Y. Kao (ジョン・カオ)

I want to thank Professor Toshihiro Ito for his hospitality and invitation to visit Nara Medical University. I am extremely honored to share my journey as a physician-scientist with the entire 2nd Year Medical Student class who are about to start their laboratory research elective. When Professor Ito visited the University of Michigan last December, we both felt that physicians must first seek to understand the mechanism of the illness of their patients. To do so, one must ask the right questions, as the answer you get is only as important as the question you ask. By participating in basic science research, one will learn how to think critically about a clinical problem and how to ask important and testable questions. In my lecture, I also shared several examples where my patients gave me new insight into the mechanisms of disease (e.g., the role of gut microbiota in diabetes management).



学生の声



医学科2年 原田 昌

John Kao 先生がなぜ医学部にいながら研究の道へ進まれたのか、人生の選択で重要な視点、そして医師として研究に携わる者としての心得を学べた貴重な機会でした。月並みな道に甘んじずに自身の“North Star”を目指す生き方に感銘を受けると共に、ただ科学をする者ではなく、医師の視点を活かした研究者を志そうと考える契機となりました。



海外リサーチ・クラークシップ派遣前研究発表会を開催しました（12月17日）」

2025年1月6日から3月20日までの海外リサーチ・クラークシップで、ドイツの Max Planck Institute for Biology of Ageing に派遣予定の原田昌さん（医学科2年）が、留学中の研究内容について発表し、また、意気込みと抱負を述べてくれました。この貴重な機会を活かして、大いに学んできてほしいと思います。



令和6年度（第2回）若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

令和6年度 第2回若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の3名の方々に決定しました。この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、20万円を上限とした助成をしているものです。（募集は年3回）皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
精神医学	医員	奥村 和生
麻酔科学	学内講師	田中 暢洋
整形外科	医員	宮本 拓馬

令和6年度 海外留学助成事業 助成者決定

今年度より本学の発展の一助とするため、海外留学助成事業を創設しました。この制度は海外において学術の研究、調査等に従事する者に対して、未来への飛躍基金を活用した海外留学助成です。令和6年度は、右記の3名の方々に決定しました。毎年募集を予定しておりますので、皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
消化器・総合外科学	大学院生	寺井 太一
呼吸器内科学	大学院生	濱田 恵理子
脳神経外科学	診療助教	森本 堯之